

学校選択制アンケートの概要

(1) アンケートの目的

現在、東部小学校区在住の児童数が増加傾向にあり、町内の学校間における児童・学級数の不均衡が拡大しております。校舎の増築などでの対応を検討していますが、今後東部小学校ではさらなる児童数の増加が予想され、教室が不足することが懸念されます。こうした現状を踏まえて、学校間の児童数の不均衡を緩和し、子どもたちがより良い環境で学校生活を送れるよう平成32年度以降の学校選択制を検討しております。

本アンケート調査は、学校選択制に関して町民の皆さまの意識や実態を把握し、学校選択制の資料とすることを目的にしています。

(2) アンケートの設計

- ① 調査対象 陽なたの丘・宮津団地（英比小学校区域と隣接する）の1～4年生の保護者
上記地区の年少未満～年長の保護者（町内保育園・幼稚園に通園）
- ② 調査方法 阿久比町電子申請・届出システム、ファックス、窓口（無記名）
- ③ 調査期間 平成30年11月16日（金曜日）～11月30日（金曜日）

(3) 回収結果

- ① 配布数 1,271人（約500世帯）
- ② 回収数 375世帯
- ③ 回答率 75.0%

(4) 報告書の見方

- ・回答率は、小数第2位を四捨五入しています。
- ・調査結果の分析では、小数第1位を四捨五入したため、合計が100%にならない場合があります。

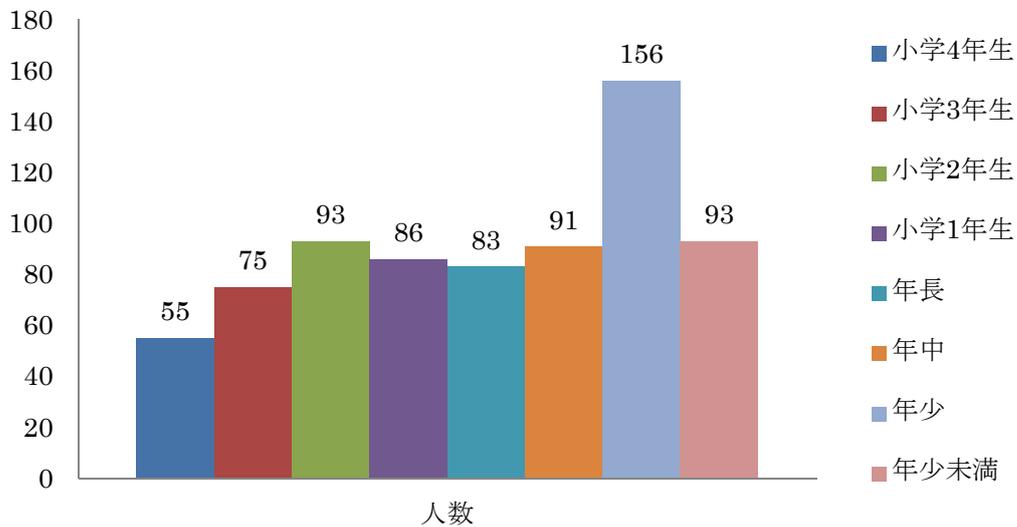
調査結果の分析

問1 お子さんの学年についてお答えください。(複数選択可)

1. 小学4年生
2. 小学3年生
3. 小学2年生
4. 小学1年生
5. 年長
6. 年中
7. 年少
8. 年少未満

結果1

問1 お子さんの学年 (複数選択)	人数
小学4年生	55
小学3年生	75
小学2年生	93
小学1年生	86
年長	83
年中	91
年少	156
年少未満	93



未就学児では、156人の『年少』が最多で、『年少未満』・『年中』・『年長』はほぼ同数となりました。

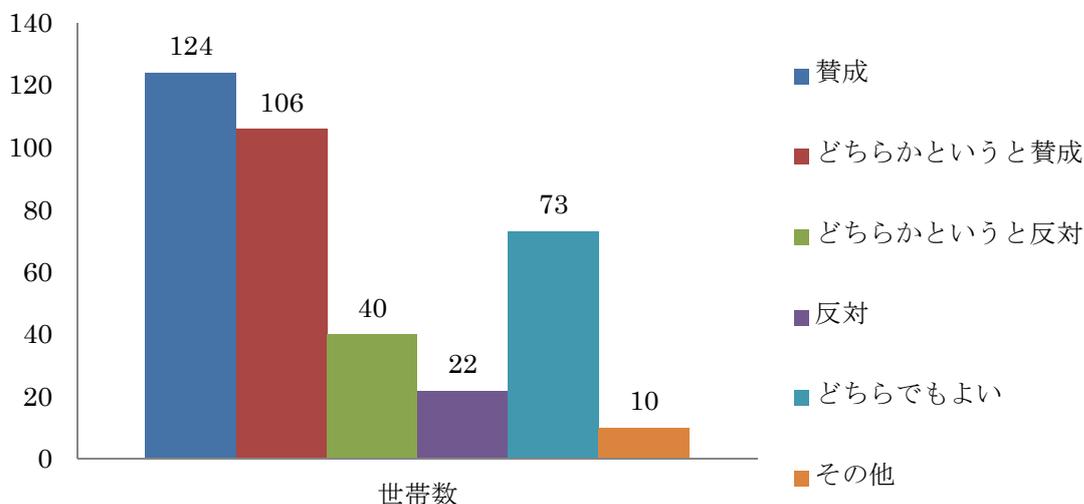
就学児で最も多かったのは、93人の『小学2年生』でした。次に、86人の『小学1年生』、75人の『小学3年生』、55人の『小学4年生』の順になりました。

問 2 東部小学校と英比小学校の学校選択制について、どう思いますか。

1. 賛成
2. どちらかという賛成
3. どちらかという反対
4. 反対
5. どちらでもよい
6. その他 (.....)

結果 2

問 2 選択制について	世帯数
賛成	124
どちらかという賛成	106
どちらかという反対	40
反対	22
どちらでもよい	73
その他	10



『賛成』・『どちらかという賛成』と答えた世帯数は、合計で 230 世帯であり、全体の約 61%でした。

『反対』・『どちらかという反対』と答えた世帯数は、合計で 62 世帯であり、全体の約 17%でした。

『どちらでもよい』と答えた世帯数は 73 世帯であり、全体の約 19%でした。『その他』と答えた世帯数は 10 世帯であり、全体の約 3%でした。

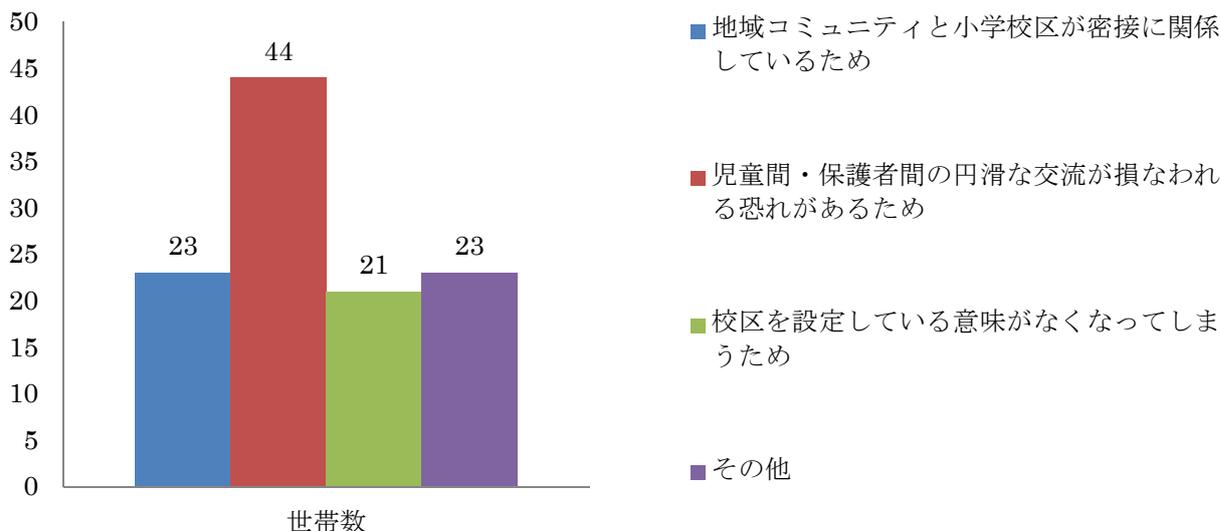
賛成が反対の約 3.7 倍となりました。

問3 問2で、『どちらかという反対』、『反対』と答えた方にお伺いします。(複数選択可)

1. 地域コミュニティと小学校区が密接に関係しているため
2. 児童間・保護者間の円滑な交流が損なわれる恐れがあるため
3. 校区を設定している意味がなくなってしまうため
4. その他 (.....)

結果3

問3 選択制のデメリット (複数選択)	世帯数
地域コミュニティと小学校区が密接に関係しているため	23
児童間・保護者間の円滑な交流が損なわれる恐れがあるため	44
校区を設定している意味がなくなってしまうため	21
その他	23



最も多く回答があった選択肢は、44世帯が選んだ『児童間・保護者間の円滑な交流が損なわれる恐れがあるため』でした。次に23世帯が選んだ『地域コミュニティと小学校区が密接に関係しているため』・『その他』、21世帯が選んだ『校区を設定している意味がなくなってしまうため』の順になりました。

今まで作り上げてきた交流が損なわれることを危惧する世帯が多い結果となりました。

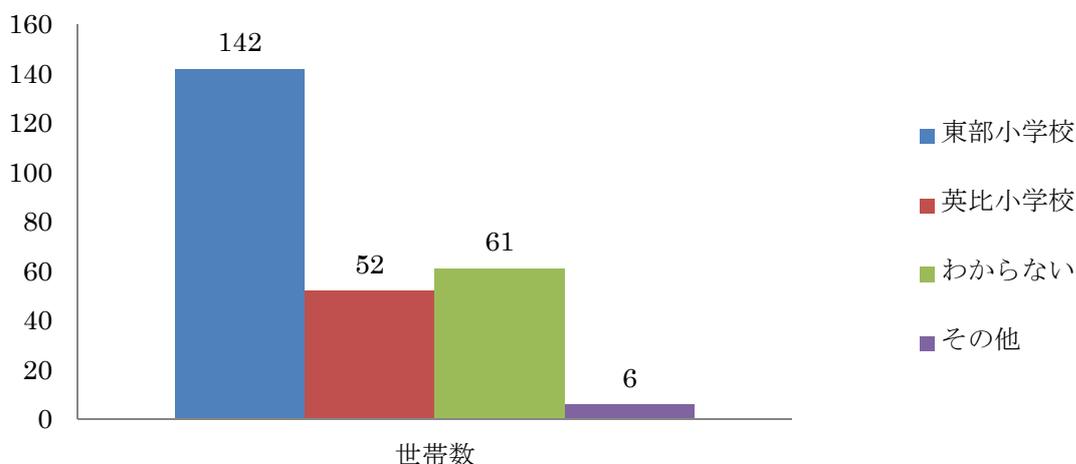
問4 『未就学児』のお子さんがある方にお伺いします。

学校選択制とした場合、新1年生の入学時に、東部小学校と英比小学校のどちらの学校を選択しますか。

1. 東部小学校
2. 英比小学校
3. わからない
4. その他 (.....)

結果4

問4 未就学児の希望学校	世帯数
東部小学校	142
英比小学校	52
わからない	61
その他	6



『東部小学校』を選んだ世帯数は142世帯であり、全体の約54%でした。『わからない』を選んだ世帯数は61世帯であり、全体の約23%でした。『英比小学校』を選んだ世帯数は52世帯であり、全体の約20%でした。『その他』を選んだ世帯数は6世帯であり、全体の約2%という結果となりました。

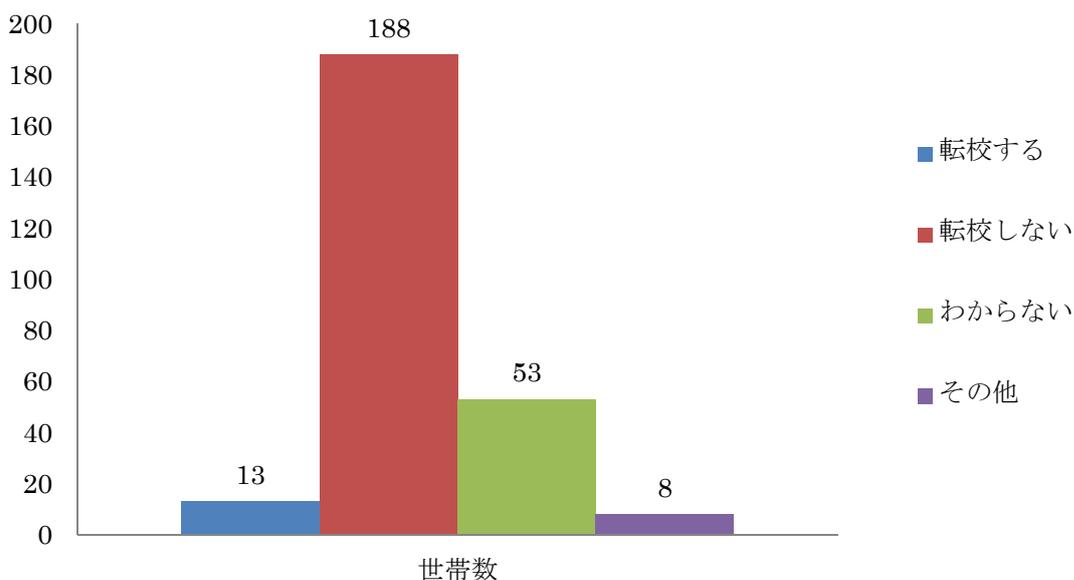
問2で、学校選択制について『賛成』・『どちらかという賛成』と答えた世帯数が全体の61%を占めているのに対して、『東部小学校』を選ぶ世帯数が多い結果となりました。

問5 『小学生』のお子さんがある方にお伺いします。
 学校選択制とした場合、英比小学校へ転校しますか。

1. 転校する
2. 転校しない
3. わからない
4. その他 (.....)

結果5

問5 小学生の転校希望	世帯数
転校する	13
転校しない	188
わからない	53
その他	8



最も回答が多かった選択肢は、188世帯が選んだ『転校しない』であり、全体の約72%でした。次に、53世帯が選んだ『わからない』（全体の約20%）、13世帯が選んだ『転校する』（全体の約5%）、8世帯が選んだ『その他』（全体の約3%）、の順になりました。

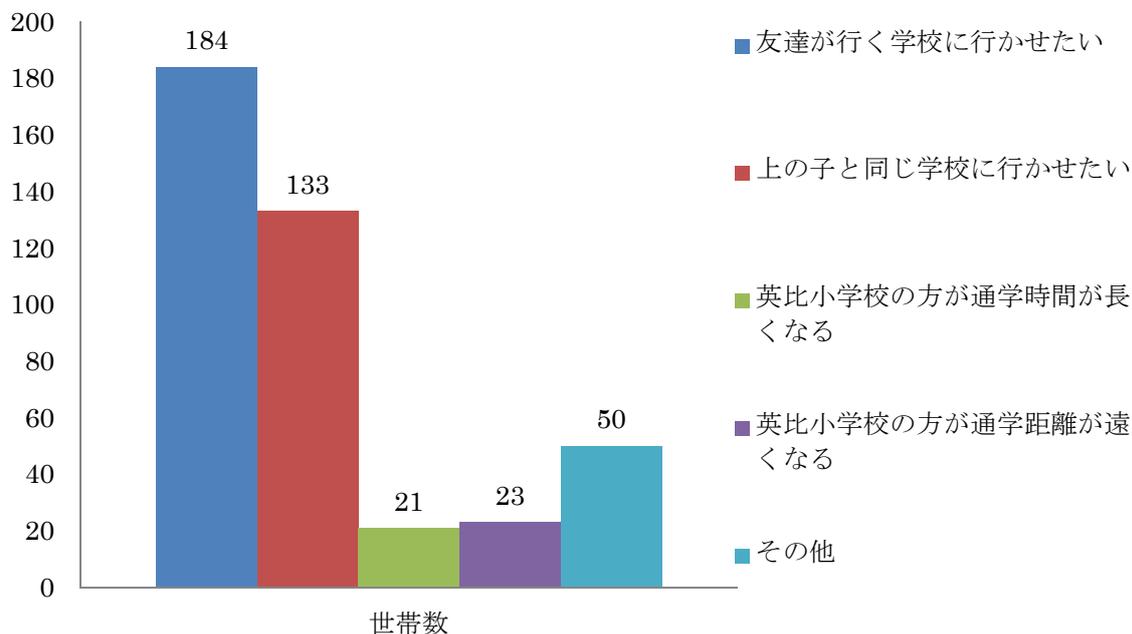
問2で、学校選択制について『賛成』・『どちらかという賛成』と答えた世帯数が全体の61%を占めているのに対して『転校しない』を選ぶ世帯が多い結果となりました。

問6 問4で『東部小学校』、問5で『転校しない』と答えた方にお伺いします。(複数選択可)

1. 友達が行く学校に行かせたい
2. 上の子と同じ学校に行かせたい
3. 英比小学校の方が通学時間が長くなる
4. 英比小学校の方が通学距離が遠くなる
5. その他 (.....)

結果6

問6 東部小を選んだ理由 (複数選択)	世帯数
友達が行く学校に行かせたい	184
上の子と同じ学校に行かせたい	133
英比小学校の方が通学時間が長くなる	21
英比小学校の方が通学距離が遠くなる	23
その他	50



最も多く回答があった選択肢は、184世帯が選んだ『友達が行く学校に行かせたい』でした。次に133世帯が選んだ『上の子と同じ学校に行かせたい』、50世帯が選んだ『その他』、23世帯が選んだ『英比小学校の方が通学距離が遠くなる』、21世帯が選んだ『英比小学校の方が通学時間が長くなる』の順になりました。

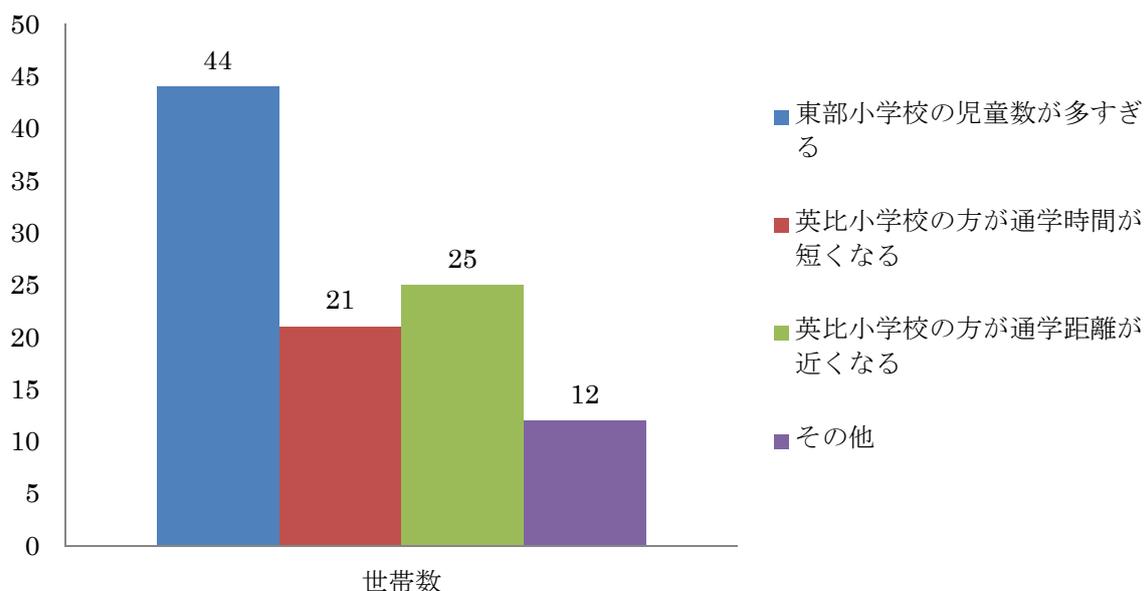
友達や兄弟姉妹と同じ学校へ行かせたいという世帯が多数を占める結果となりました。

問7 問4で『英比小学校』、問5で『転校する』と答えた方にお伺いします。(複数選択可)

1. 東部小学校の児童数が多すぎる
2. 英比小学校の方が通学時間が短くなる
3. 英比小学校の方が通学距離が近くなる
4. その他 (.....)

結果7

問7 英比小を選んだ理由 (複数選択)	世帯数
東部小学校の児童数が多すぎる	44
英比小学校の方が通学時間が短くなる	21
英比小学校の方が通学距離が近くなる	25
その他	12



最も多く回答があった選択肢は、44世帯が選んだ『東部小学校の児童数が多すぎる』でした。次に25世帯が選んだ『英比小学校の方が通学距離が近くなる』、21世帯が選んだ『英比小学校の方が通学時間が短くなる』、12世帯が選んだ『その他』の順になりました。

学校選択制について教育委員会の見解

阿久比町教育委員会では、東部小学校の児童数急増により、学校間における児童数の不均衡と、学校規模の適正化を図るため、東部小学校と通学区域外の英比小学校を選択して就学できる学校選択制を実施していきます。

なお、学校選択制を実施する条件は、下記のとおりとします。

- 1 学校選択制を実施する区域は、東部小学校区のうち、英比小学校区に隣接する「陽なたの丘」と「宮津団地」の地区とする。
- 2 学校選択制を実施する期間は、平成 32 年度（2020 年度）から、東部小学校の児童が減少し、学校規模が適正化されたと教育委員会が判断するまでとする。
- 3 対象者は、平成 32 年度（2020 年度）から新入学する未就学児及び転入学児童とする。ただし、新入学する未就学児及び転入学児童の兄弟・姉妹については、同じ小学校に通学することが出来る。
- 4 平成 32 年度（2020 年度）に限り、前項にかかわらず、第 1 項の区域内における東部小学校に在籍する児童は、英比小学校を選択することが出来る。